「台風の恵み」

新得町立屈足中学校長　山下　英男

真夏の沖縄県読谷村に４泊５日の研修に行ったことがあります。メタボで汗かきな私は、冷房の効いた那覇空港から出てバス乗り場までのわずかな移動でも、まるでサウナに入ったかのようになり、全身汗だくの状態になりました。

そしてバスに乗り込むと、そこは冷房の効いた天国のような空間でしたが、その思いもつかの間で、汗をかいたからだは強烈な冷房で急激に冷やされて、その後はおなかの調子が・・・。思わず、荷物からタオルを出しておなかを温めたことを覚えています。

さて、沖縄研修の中で、読谷村の役場の方や村の住人の方々から色々な話を聞くことができました。

その中で一番驚いたことが「台風の恵み」についてでした。

沖縄県は台風の通り道にあるようなもので、多くの台風が通過していきます。

直撃することも良くあり、甚大な被害を被っていると思っていました。

でも、この台風のおかげで多くの恵みがあることを教えていただきました。

沖縄県は山が低くて川が短いので、降った雨はすぐに海へ流れてしまい生活用水に恵まれていません。

なので、村にある住宅にはそれぞれ大きなタンクが設置してあり、雨水をためて生活に利用しているそうです。

また、台風の強い風によって、海面付近の温かい海水と深いところの冷たい海水がかき混ぜられて、珊瑚に適した水温となっているとも教えていただきました。

それだけでなく、海水がかき混ぜられることで、珊瑚などの生物にとって必要な酸素やプランクトンが海底付近にも供給されているのです。

沖縄のエメラルドグリーンの源となっているテーブル珊瑚は、台風の恵みによってもたらされているのでした。

もう一つ、台風が海から運んでくる潮風は、沖縄の畑をミネラル豊富な土壌にしてくれるので、健康な野菜を作ることができるそうです。

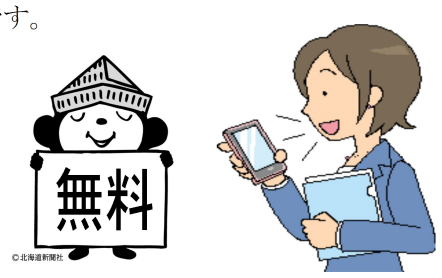
自然の力は凄いですね。

電子版で朝刊読めます

スマホで！タブレットで！パソコンで！紙面を丸ごと読むことができるサービス、「どうしん電子版」！

購読料プラス　　0円

「どうしん電子版」は、道新を月決め料金で定期購読している方なら、無料で登録できる電子版会員限定のサービスです。



お問い合わせは

0120-889-104

送料無料

当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実にお取り寄せします。

今読みたい話題作！欲しい本をお取り寄せ！

気軽にお問い合わせください。

通販は送料がかかりますが当販売所は無料です。

※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

こちら屈足駐在所

No5

佐藤和典　巡査部長

「災害と義援金詐欺」

２０１８年９月６日に発生した、北海道胆振東部地震から１年が経ちました。

停電、河川の増水、道路交通の遮断等、避難場所の再確認や食料、懐中電灯やロウソク、情報収集のためのラジオと電池等、可能な限りの災害対策をお順いしたいと思います。

また、過去の災害において特殊詐欺の発生も見受けられました。

役場職員を装って家庭訪問し、災害募金を求めた。息子を喘り「職場で集めた義援金をなくしたのでお金を貸してほしい」と電話・ネットやファックスで公的機関と紛らわしい機関名を喘り『災害義援金』を求めた等といった事例が発生しています。

募金や義援金等は、相手から個別に求めて来ることはありません。災害への備えとともに、不審な義援金詐欺等にも御注意下さい。

道新八月号ポケットブックの御案内です。

▼ポケットブック８月号＝災害に備えよう

災害のニュースを耳にするたび、私たちの防災意識は高まります。防災グッズをそろえたり、防災知識を学んだり、しかし、実際に災害が起きたとき、イメージ通りに行動できるとは限りません。万が一のときにも、慌てず、迷わず、的確に行動するためには、普段の生活の中に「災害への備え」を根付かせることが大切です。配布済み

次号予告

「みんなの人気者　バナナ」　お楽しみに。

ねっとわーく屈足　検索

ねっとわーく屈足電子版

ミニコミ紙「ねっとわーく屈足」が、パソコンやスマートフォンで動画も閲覧できます。

ツイッターも屈足の話題一杯毎日更新！

じじーakira1942　検索

連続小説

完走

赤池　武臣

稲妻のような筒みは百メートルほど登ったところで突然、脇腹を真横に走った。

丁度、坂の六合目あたりだった。

激痛は二度三度と良太の脇腹を襲い、そのショックは太腿を直撃した。太腿にけだるい重さが除々に蓄積しはじめた。

とにかく今は何としてでも坂を登り切ることだ。登って平担な道に出さえすれば、と良太は歯をくいしばった。

振り返ると先頭集団は坂を登りはじめていた。だが距離にしてまだ七八十メートルの差はあった。

これまでも何回かこんな経験はしている。そんなとき、大きく深呼吸をくりかえしながらスピードを少し落とすことで腹痛は治っている。平担な道にさえ出ればと良太が思ったのもそのためだった。

だが脇腹の刺しこむような痛さは、焼火箸が突き刺さったように、むしろその度を増してきた。

頬に冷たい汗がしたたる。もう、振り返る余裕などなかった。

「今年の一等賞の賞品は、米一俵だそうだ、米一俵だぞ、大した賞品じゃないか。良太、今年のマラソンも頑張って一等賞を狙いな」

昭和二十二年、敗戦の混乱も少しは落着きをとり戻し、岡原村でもちらほら復員してくる兵隊の名前を聞くようになった。

戦時中、ずっと兵隊の陣地として占領されていた校庭が開放されたことを機に、途絶えていた秋の運動会を、村人たちが復活させた。

応援する方もされる方も大半を子供と老人が占めていたが、今年は復員してきた兵隊の何人かが加わったこどで活気が増し、云年よりいっそう盛り上がりをみせた。

去年は母が芋飯の飯粒をかき集めて、握飯を一つ作ってくれた。戦争にとり残された若者に混じって良太も走ったのだ。結果は二等だったが満足だった。

しかし今年は現役の兵隊が加わっている。強敵だ。

「スタート五分前」

つづく

<1>